

ハーモニー



第32号

発行：下田市役所企画財政課 編集協力：男女共同参画社会の実現を目指す市民懇話会
電話：22-2212 FAX：22-3910 E-MAIL：kikaku@city.shimoda.shizuoka.jp

chapter 1 高齢者の居場所づくりについて懇談会を開催

ひと
男女懇話会では、下田市が男女共同参画社会を実現するため、高齢者・生活困難者の支援を考えることは重要だと考えています。その一環で今年6月に伊豆松崎出会い村「蔵ら」を視察し、高齢者の居場所づくりの取り組みについて前号のハーモニーに掲載しました。今号では、市の地域包括支援センター職員と男女懇話会メンバーとで懇談会を開催しましたのでその内容を紹介します。

男女共同参画社会の実現を目指す市民懇話会が目指すもの

下田市が男女共同参画社会を実現するために

1 子育て支援を考える

- ・家庭でも仕事(社会)でもいきいきと生きる女性のための支援
- ・男性が家庭と仕事を充実できる職場環境の改善支援



できることからやりましょう

ファミリーサポートセンター
活動の支援



2 政策や方針の決定の場への女性の参画拡大を考える

- ・地域の女性リーダーの育成
- ・自治会、PTA等や自主防災組織への働きかけ



できることからやりましょう

行政を通じて働きかけを行うと共に、地域での女性の活動支援



3 高齢者・生活困難者(家庭)の支援を考える

- ・ひとり親家庭への支援(自立へ向けて)
- ・育児放棄家庭、ひきこもりの子を持つ家庭支援
- ・高齢者とのふれあい支援



できることからやりましょう

地域を結びつけるきめ細かな活動話を聞く、相談にのる
☆地域で活動する組織と連携をしましょう



地域力の向上

◎啓発活動としての“ハーモニー”の役割！

◎下田市の高齢者の居場所づくりの現状について



懇談会の様子（9月4日中央公民館にて）

下田市の現状について

- 下田市の65歳以上人口約8,550人、高齢化率35.3%。独居高齢者率23.7%（約2,000人）。※県平均高齢化率24.9%で下田市は県内8位。
- 高齢になると引きこもりがちになり、地域内で孤立する可能性が高い（特に女性より男性の方が引きこもりになる割合が多い）。それらを防ぐため、また地域との繋がりを作るため、昨年度居場所づくり事業を進めた。
- 昨今、デイサービス利用者増加により、介護保険に関する支出が増加。

⇒地域の老人クラブ、自治会、ボランティアやNPOの手による集まる場所があるとその費用を抑えることができるのではないかと考えている。

- 昨年度、市として県補助金を利用し、先進地視察や講演会を通じ、市民の皆さんから中心となって運営してくれる人が出てくることを願い事業を実施したが、結果として立ち上げに至っていない。
- 社会福祉協議会のサロンと居場所づくりの違いは、サロンは週1回なりの定期的なものであり、居場所づくりは常設のもの。
- 県は「ふじのくに型福祉サービス」を掲げ事業展開しており、下田市についてもこれに基づいて様々な事業を展開していきたい。【「ふじのくに型福祉サービス」の詳細については3ページ参照】
- また昨年度、県と県社協が居場所づくり実践者養成研修会開催。今年度は県が県社協に委託し、居場所づくり交流会を実施。これは居場所づくりを立ち上げたい方、協力したい方、運営している方の交流会で、地域包括支援センターとしては、この交流会に参加し、立ち上げたい方たちの相談にのっていききたい。

他市町の状況

西伊豆町） 社協へ包括を委託。事業内容としては、これまで社協が行ってきた内容。資金としては「支えあい」「共同募金」等で賄っている。そういった中で仁科地区の旧山田医院を改装した住民憩いの場「よってって山田さん」が居場所づくりの形としてでてきた。

牧之原市） 高齢者福祉課、社協、包括の3部署でプロジェクトチームを立ち上げ、モデル地区を選定。まちづくり計画の中で見守り、支えあい事業を位置づけ（担当：地域企画課）。地域づくり自体は、社協が中心に行っている。

意見交換内容

委員） 以前吉佐美では、公民館までは行けないが区事務所を使った集まりがあり、20名くらいが集まり、個々でお金を出し合っていた（行政から補助金を貰うと堅苦しくなるので行っていなかった）。その集まりの中でよく言われていたのが、近くに人が集まれる施設ができると良いねという意見が多かった。そういった場所を作るのは凄く大切であると思う。

委員） 市内でそういった活動をしている団体などを調査したり、その団体からの意見を吸い上げるなど仕組みはあるのか。

包括） 現在のところそういった仕組みはない。居場所とは関係なく、社協のサロンを増やしていくというのも1つの方法なのかなとも感じている。今後、団塊の世代の人が多くなり、そういったニーズは必要となっている。

【4ページへ続く】

「ふじのくに型福祉サービス」の 概念 + 効果

共生型福祉施設

概念

高齢者向けのデイサービスセンターや特別養護老人ホームに、障害のある人の「通い」「泊まり」や子どもの「子育て支援」を受け入れている。

効果

住み慣れた地域で安心してサービスを受けられます。

安心

高齢者用の施設を活用することで、障害のある人が慣れ親しんだ環境で生活できるほか、地域全体で子どもを見守ることができます。

相乗効果

一つの場所で互いを知り、助け合うことができます。

高齢者、障害のある人、子どもたちが一つの場所に集うことで高齢者は活力を、障害のある人は自立心を、子どもたちは優しい心を育むことができます。



ワンストップ相談

概念

身近にある地域包括支援センターで相談を受け付け、さまざまな施設や窓口と連携して対応している。

効果

安心

身近な場所で問題を解決できます。困った時にすぐに相談窓口が分かります。

相乗効果

家族が抱える問題を一緒に解決するほか、必要なサービスを提供します。

専門スタッフが家族の悩みを一緒に考え、解決方法を導き出します。各相談窓口が提供するサービス情報をまとめ、効果的に必要なサービスを提供しています。



居場所

概念

高齢者、障害のある人、子どもの共生の場、地域の交流の場。

効果

自発的に行動する住民が増えて、地域活性化につながります。

年齢や障害の有無にかかわらず、誰でもが自由に立ち寄れる場所で触れ合いが生まれ、地域社会にプラスの影響をもたらします。



安心・安全なまちづくり

引きこもり
孤独死予防

障害者支援

商店街の
活性化

介護予防
認知症予防

子育て支援
学校支援



男女共同参画情報紙「ハーモニー」は下田市ホームページでも公開されております。

ホームページアドレス <http://www.city.shimoda.shizuoka.jp/>

【 ホーム > 市政ガイド > 男女共同参画 > 男女共同参画情報紙「ハーモニー」 】

※男女共同参画情報紙「ハーモニー」へのご意見、ご感想を募集しております。

下田市役所企画財政課企画調整係までご連絡ください。

TEL:0558-22-2212 FAX:0558-22-3910 E-mail:kikaku@city.shimoda.shizuoka.jp

- 委員) おしゃべりしたいがそういった場所がなく、横の繋がりがなくなっている。
- 包括) 1か所でもサロンのものを広げていければ、それが噂となり、うちの地域もやりたいという声も多くなるのではないかと思う。
- 委員) 居場所づくりに関して、包括の事業としてどんな企画をもっているのか。
- 包括) 昨年度は、皆さんに対し自主的に居場所づくりをしてもらうための啓発事業を進めた。
- 委員) 昨年は関連事業に参加しました。また、平成21年度に社協が中心となった6日間の講習も受けさせてもらった。松崎町蔵ら代表の青森さんなどは中心的にできる素質を持っており、また周りでサポートする人間もいたから成功したのだと思う。まずは、中心的にできる人材育成をしないとこの居場所づくりは難しいと思う。また、こういった事業を始めるのには非常に労力が必要。女性の会が北湯ヶ野でサロンを実施しているが、立ち上げ当初は地元民生委員や区長さんとの調整、実施場所の確保などで非常に手間取った。岩下区では、かわせみというクラブ（2月に1回定例会開催）が区の補助を貰いながら活動をしている。具体的には防災対策としてアルファ米の作り方、警察からオレオレ詐欺の講習などを行っている。人が集まれる公民館みたいなものがなくなっているのが問題だと思う。
- 包括) 高齢者の居場所づくりとなっているが、実は高齢者だけでなく、全ての人が集まれる居場所というものが求められていると考えている。岩下区は買物なども家から歩いていける距離で、非常に土地的に恵まれた地区だと思う。他地域では車を利用しなければならない。
- 委員) 岩下区公会堂は毎週水曜には誰かどうかいる日になっており、サロンの役割ができると思う。
- 委員) 女性は人が集まる場所へ行くことに抵抗はないが、男性はどちらかという苦手なのではないかと思う。男性は趣味で集まる仲間くらいで、そういった意味からも男性に対しての居場所づくりというものがより重要だと思う。
- 包括) 昔はあった3世代の交流というものもなくなっている。交流を提供する場所を作らなければならないと感じている。そういった意味からも高齢者だけではない居場所というものが改めて必要だと感じている。
- 委員) 居場所づくりをするために必要なことは2つあると思う。1つは場所が大事、2つ目はリーダーが重要。新田地区にははるみ会という老人会があり、毎月定例会を開催している。ここでは地元子ども会との交流なども行っている（公会堂清掃や豆まきなど）。その中で最近感じることは、大人が子どもに無関心であるのに対し、子どもも大人に無関心になってきている。日常の交流は、災害などのいざというとき本当に役立つものである。人との繋がりは非常に大切。
- 委員) 掘り起こせば、小さな活動が数多い。そういった情報を各地域に認識してもらうためにPRすることが大切である。その後に繋がる可能性も高くなるのではないかと思う。
- 包括) 区長さんなどを通じ情報を得ながら、広報等でPRしていきたい。また、社協のサロンとの繋がりも居場所づくり交流会などを通じて密にしていきたい。下田にはまだコミュニティの力が残っていると思う。この居場所づくりを進めることは、結果として介護保険、医療保険の医療費削減に繋がっていく大切な活動である点も市民の方々へPRしていきたい。

【あなたの居場所教えてください！】

下田市地域包括支援センターでは、皆さまの身近にある居場所の情報を集めています。どんな小さな活動でも構いませんのでぜひともご連絡ください。

連絡先: 下田市地域包括支援センター TEL:0558-22-2077